

環境室(スタッフ)

圧延班C班(現場)に最優秀賞

第18回改善活動成果発表大会 拓南製鐵

INDEX

3 拓南商事改善活動発表会

5 拓南製作所改善活動成果発表大会

7 TOPICS

初荷式/古波津会長がTHANKS運動基金に寄付
/新成人を祝福/石灰工場がゼロ災2000日達成/松本職長大臣顕彰/合同工場見学会 etc.

10 連載「拓南余話」⑩

「うりづん」 おれづむ、うりづみともいう。大地が潤い、
麦の穂が出る時節のこと。『沖繩語辞典』(研究社)より

拓伸会会報(隔月発行)

〒900-0025

沖縄県那覇市壺川3の2の4 [拓南ビル3F]

拓南本社内「たくしんNEWS」編集委員会

TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586



最優秀賞2チームと審査委員の皆さん

拓南製鐵の第18回改善活動成果発表大会が2月20日、
沖縄県工業技術センター講堂で開かれた。スタッフチー
ムの部(7チーム)と現場改善チームの部(9チーム)の
計16チームが発表し、最優秀賞は、スタッフチームの
部が環境室(テーマ「レンガ屑の利用模索」)、現場改善チ
ームの部が圧延班C班(「精整場の不具合の撲滅」)。知念
正元取締役副社長は開会あいさつの中で「今回は、例年
の発表とは少し違う観があり、やってみないと分からな
い改善活動が目についた」と講評した。

発表大会には、協力企業を
含めた全社員、会員企業幹部
が参加し、県内外のグループ
企業へリモート配信した。

席上、八木実代表取締役社
長が開会のあいさつをした。

「今次会は、皆さんがそれぞ
れ足元をしっかりと見つけ、深
掘りした発表テーマが多い
ようだ。今後とも、CO2削
減など、時代の変化にマッチ
した改善活動を期待してい
る」

続いて、古波津昇代表取締
役会長があいさつに立った。
「年々、発表内容が進化して
いる観がある。皆さんの改善
活動が1円、1円のコスト削
減や利益を生み出している。
そのことに誇りを持っている。
しい。これからの沖縄や日本
に残せる仕事として取り組
んでほしい。自分たちの力を
100%以上出せるような
発表を期待している」

その後、拓南製鐵と拓南商
事の改善活動を技術指導す
る寒河江孝志氏が「未来に向
けた拓南製鐵の学び直し(リ
スキニング)」をテーマに講
演した。

そのなかで寒河江氏は「人
の成長なしに企業の発展は
ない。困難な作業に挑戦し、
成し遂げることで人は成長
する。自分の中の「好き」を極
めてほしい。そして、新しい

ものを創り続ける。それが、
拓南製鐵の文化を変えてい
く。未来を創るとはそういう
ことだ」と述べた。

発表は、スタッフチームの

16チームが改善活動発表

《スタッフチームの部》

○製造部圧延班(職員)「ペー
パレス活動」(発表・PC
操作 玉城聖也氏)

紙の使用量15%低減(31
2枚/月)を目標に、管理業
務では電子印鑑の使用、帳
簿押印の通知、社内標準の
電子保管、現場業務ではE
xcel機能の活用、i p
honeアプリを利用した
入力により、目標を達成し
た。

○営業管理部「バラ作り作業
低減化に向けた取り組み」
(高永達也氏)

バラ作りにおいて本数カ
ウント作業の低減を目指し
た。対象物を撮影するだけ
で本数カウントするアプリを
検証した。さらに今後の課題
として、手作業でのバラ作り
作業自体をなくし、ヒューマ
ンエラーを防ぐ自動化を技
術部と検討している。

○技術・企画推進室「新製品
開発活動」(知念響氏)
*現時点で公開できない

部、現場改善チームの部の順
で行われた。各チームの持ち
時間は13分(入れ替え時間含
む)



八木社長



古波津会長

情報のため説明を省略
○製造部製鋼班(職員)「スマ
ートグラスを活用した製鋼
作業の技術継承」(棚原大樹
氏)

炉前作業の技術は、感覚的
なことやニュアンスを若手
に伝えることが難しい。そこ
で、視点入りの動画が撮れる
グラスを用い、作業項目ごと
に作成して教育資料を残し、
活用してもらう取り組みを
続けている。

○技術部(職員)「ネットラン
ナーの開発とエネルギー消費量
削減による省力化」(仲里典
子氏・仲里幸氏)

ネジテックコンカブラー締
め付けにおいて、トルクレン
チを用いた手作業から機械
によるネットランナー締め
付けを開発した。また、シリ
ンダーの位置変更により輻
射熱を避け、冷却エアのコ
ストとして750万円がかか
っていた電気代をゼロにし
た。

○環境室「レンガ屑の利用模



最優秀賞(現場改善)は製造部庄延班C班に。富山雄大氏(右)



最優秀賞(スタッフ)は環境室に。(左から)八木社長、盛島守礼氏

《1頁より》
索》(盛島守礼氏)

レンガ屑は、県内企業で不溶化してもらってきた。しかし、処理費用の増加が問題になり、社内外での処理を含め模索した。現在、電気炉での有効利用を提案し、検証を進めている。年3420万円の削減が見込める。

○営業部「シルバー鉄筋営業活動について」(川村剛司氏)
シルバー鉄筋についてヒヤリングし、耐久性の認識が一般的に薄いことが判明した。そこで、糸満市物件への出荷を機に、塩害対策品とし

て図面に折り込んでもらうような提案営業に切り替え、新規用途への挑戦をしている。

《現場改善チームの部》

○加工センター「作業の負担軽減と安全面の確保」(仲真魁人氏・比嘉汐音氏)

高速カッター使用時やリレージョイント作業まわりでは、腰をかがめるため作業負担になっていた。それぞれ台を改善し、作業の効率化、安全面の確保につなげた。工場内の備品や工具類の定位

置化にも取り組んだ。
○製造部庄延班C班「精整場の不具合の撲滅」(富山雄大氏・島袋亮太氏)

結束線が起因する不具合やトラブル、危険な作業に当たっている事項、製品サイズ限定の不具合など、精整場で起きる慢性的な不具合全般を限りなくゼロに近づけるために、一つ一つPDCAを回しながら解決してきた。

○技術部「現場」「機械加工スキルの向上と炉底電極取替作業の改善」(新垣勝也氏・大城勇斗氏)

機械加工スキルを向上させるため、使用工具と切削条件の複数組み合わせを検証し、加工効率の最適化を図った。また、炉底電極取替作業の効率化を図るために治具を改善した。

○製造部製鋼班(CCM)「酸素富加によるタンデッシュユ予熱の省エネ化」(久高唯克氏・古波津寛二氏)

通常のタンデッシュユ予熱はエアーのみだが、酸素を富加することで予熱時間の短縮を試みた。温度管理ができるようにセンサーを取り付け、目標温度を設定した。約1時間の時間短縮(燃料削減)ができ、省エネにつながった。

○製造部石灰工場「排鉱室清掃作業時の粉じん削減」(松田智喜氏・赤嶺唯温氏)

排鉱室コンベア等から漏れる粉じん量が多く、清掃作業の作業環境測定結果が第3管理区分だ。粉じん発生箇所の封じ込めや詰まり予防のため定期清掃をルール化した。粉じん量は10分の1に削減したが、目標には至って

【現場改善チームの部】



庄延班C班 富山雄大氏 加工センター 仲真魁人氏



技術部 大城勇斗氏(左)・新垣勝也氏



石灰工場 松田智喜氏 製鋼班(CCM) 久高唯克氏



品質管理室 我謝佑太氏 庄延班A班 新里健氏



庄延班B班 上原幹太氏 製鋼班(炉前) 玉寄良太氏

【スタッフチームの部】



営業管理部 富永達也氏 庄延班 玉城聖也氏



製鋼班 棚原大樹氏 技術・企画推進室 知念響氏



技術部 仲里幸氏(左)・仲里典子氏



営業部 川村剛司氏 環境室 盛島守礼氏



沖縄県工業技術センター講堂

いない。

○製造部庄延班A班「知識の伝承」(新里健氏・富真嗣久氏)

新人社員や配置転換後の作業者のOJTが現状より早く終了し、独り立ちできるまでの期間短縮を目指して、ベテラン作業員が持つ知識やノウハウの文書化に取り組んでいる。引き続き「庄延バイブル」作成を目指す。

○品質管理室「作業環境改善活動」(我謝佑太氏)

分析サンプル保管かごの改良、鉄筋計測における試験機器の設置き化および定位置化、石灰試験室の帳票物の整理および製品の表示化を実施。毎月1回維持状態をチェックする仕組みも構築している。

○製造部製鋼班(炉前)「炉蓋エルボー改造による作業負担軽減」(玉寄良太氏・大湾

一輝氏)

作業後のエルボーに堆積するダストが多い。重く固いため作業負担が大きく、熱中症にもつながる。そこで、エルボーの勾配がつき始めるスパンを短くすることで堆積量が減り、さらにダストが落としやすくなった。

○製造部庄延班B班「ランアアウトテーブルの騒音対策」(上原幹太氏・喜友名朝也氏)

チームの発表後、各賞の審査が行われ、盛島守礼執行役員(品質管理室長兼環境室長)が結果を発表した。

《スタッフチームの部》
☆最優秀賞
環境室「レンガ屑の利用模

来期もさらなる改善活動を

ランアウトテーブルは、90デシベルを超えて第3管理区分である。改善に向けて、実験用ローラーに諸充填剤を入れて音を比較した。その結果、ウエスオイルを選択した。ローラーの数は200を超えるため、現時点ではデーター取りとなり、ローラー取替時に今回得られた改善を実施する。

《現場改善チームの部》
☆最優秀賞
製造部庄延班C班「精整場の不具合の撲滅」

技術部「機械加工スキルの向上と炉底電極取替作業の改善」
☆優良賞
製造部庄延班A班「知識の伝承」
製造部製鋼班(炉前)「炉蓋エルボー改造による作業負担軽減」

各賞発表後、表彰式が行われ、八木社長が最優秀賞2チームに表彰状と記念品を贈呈した。

発表会のしめくりに、知念正元取締役副社長が「表彰対象に該当しなかったが、加工センターが、安全に対してスピーディーに対応したことを評価したい」と前置きし、

リサイクル事業部家電班 最優秀賞に輝く

第7回改善活動発表会 拓南商事



各賞受賞チームと役員の皆さん

拓南商事の第7回改善活動発表会が2月21日、沖縄市民会館ホールで開かれた。協力企業を含む全社員、会員企業幹部が参加した。15チームが改善活動を発表し、審査の結果、リサイクル事業部家電班チーム(テーマ「塩水による被害防止」)が最優秀賞に輝いた。席上、川上哲史代表取締役社長は「社会の変化が激しく、そのニーズに対応するために新たな挑戦に取り組まなければならない。そのためにも、見る目を養う、みんなが考える、みんなでチャレンジするこの改善活動が重要」と強調した。

発表会は、長嶺巧専務取締役(工場長)の開会宣言で始まった。

「各チームは、1年間取り組みでできた成果をしっかりとアピールしてほしい。会場の皆さんは、各発表を参考にし、今後の業務改善に役立てていこう」

続いて、古波津昇代表取締役会長があいさつに立った。「改善活動を重ねていくに従って、コストの問題、技術的な問題だけでなく、安全衛生についても意識が高まっているように思う。改善活動を通してチーム内での支え合いが、会社全体さらにはグループ会社全体の支え合いにつながっていく。それを意識してご尽力いただきたい」。

15チームが改善活動発表

○工務部業務サポート班「ノロビット作業の見える化」(発表・PC操作 坂本昇氏)

ダンブがバックで入るとき真っ直ぐに進みにくい、ノロビット整地時に重機から深さが分かりづらい、トラックス積み込み時にこぼれたノロでダンブを損傷させてしまう可能性があるなど諸課題の改善に取り組んだ。

○工務部業務サポート班「給脂作業の効率UP」(古我知優弥氏)

スラグ選別プラントのグリスライン改善を行った。高所にあったグリスアップの箇所を、ラインを下まで降ろすことで危険作業を減少させ、2人で行っていた箇所を

今大会で各チームは、思いの丈を全て出し、あるいは、このような改善をこれからしていきたいという思いも込めて発表していただいた

その後、改善活動を技術指導する寒河江孝志氏が「未来に向けた拓南商事の学び直し(リスクリング)」をテーマに講演した。その中で寒河江氏は「拓南商事の工場をショーケース(見せる工場)に変えてほしい。すばらしい活動を地域の子どもたちに見せたい」「沖縄県の新しいリサイクルに挑戦してほしい」と述べた。そして、15チームの発表(各12分間)が次の順で行われた。

「各発表を通して、例年の改善活動と少し違う観があった。例年の発表は、PDCAを回しながら最終的にはこうなるのではないかとというイメージを持てる改善活動が多かった。しかし、今回は、製鋼班(炉前)、圧延班A班など、やってみたいと分からない改善活動が目についた。それだけに、製鋼班(炉前)では次の工程で新たな課題が生まれ、圧延班A班では目標の完結に至っていない。来

年の大会では、完結した内容の発表を期待している。各発表のなかで、とりわけ、技術の伝承をテーマにした発表が印象に残った。ベテラン社員の頭の中にあるものを(見える化)すること、後輩の育成にも時短にもつながる。拓南製鐵にとって大きな宝、財産になっていく。来期も、さらなる改善活動を通して、皆さんの技術力アップと社の発展を願っている」

1人でできるようにし、作業時間の短縮にもつなげた。

○営業部購買班「お客様ヘルメット着用率UPを目指して」(仲本和哉氏・上原大樹氏)

ヘルメットの重要性を認知していないお客様のために着用率の改善を図った。ヘルメット置き場をお客様車両近くに移動したり、ヘルメットを箱内で清潔に保管したり、ヘルメットの表示物をマグネットシート製にした。

○営業部鉄屑班「ガス切断場における着火改善」(小浜守人氏・中村慎之介氏)

切断機のトーチが長いいため、着火作業がしにくい。安全で効率的な着火方法を検討し、ガスだまりができるようなつくりの新着火装置を制作した。足踏み式にしたことで、トーチが長くても着火しやすくなった。

○営業部清掃班「正面入口の門扉開閉改善」(仲間徳正氏・中村慎之介氏)

夜勤警備員から門扉が開



沖縄市民会館ホール

めづらく苦労している話を聞いた。まず、戸車を交換してスムーズに動くようにした。その上で、車両班の戸締まりをヒントに、半自動で開け閉めができないういか、ウインチの設置を検討した。

○営業部車両班「ダンブ・アイム荷締め作業の改善」(儀間裕也氏・比嘉恵一朗氏)

改善すべき問題点を皆で洗い出した。そして、4・1mの高さを即時に測るための治具として格納型スケー



最優秀賞はリサイクル事業部家電班。(左から)川上社長、野原朝美氏、木下進氏

《3頁より》
ルを作成した。また、ネット・ワイヤーを安全にかけられるようにフックの位置などを調整してテストした。
○営業部車両班「廃車積荷のセンター取り改善」(神村亮氏)
前回は「積み込み時間をもっと早く、楽にしよう」とチャレンジし、今回は「新人でもセンター取りがしやすいように」「乗用車を乗せても高さを気にせずに積み込みができるように」を課題として改善に取り組んだ。
○営業部営業課「新断代替スクラップ数量UPへの取り組み」(中村慎之介氏)
現在の新断代替スクラップの種類は自動車の鉄ホイール(月60トン)、家電由来の鉄(月20トン)だが、集荷目標(月100トン)に達していない。そこで、使用済み自動車や事務什器から新断代替スクラップを創出した。
○リサイクル事業部家電班
「塩水による被害防止」(木下進氏)
塩水の回収を初めに行うと後工程に影響を及ぼす。そこで、塩水を最後に回収し飛散の影響をなくした。ドリル用防塵カバーを取り付けた。塩水回収機をドラム缶のレベルより上にあげるなどし、改善を図った。
○リサイクル事業部シュレッダー班「ASR再資源化施設周辺の作業環境改善」(喜屋武司氏)
土砂ガラスフレコン回収場北側フロア作成、土砂ガラス切り替えシュート部改善、RPF冷却作業改善、グリスポンプ定置化、ベルトコンベアアンダーカバー設置によって、作業環境の改善、業務の効率化を狙った。
○リサイクル事業部炭素化施設班「投入すり位置ずれ防止ガイドおよび転倒防止フエンス製作」(幸喜克幸氏・仲宗根英樹氏)

投入すりとは、分解室内よりチェーンで引き出す際や、専用架台がコンベアチェーン上で空回りする際などに位置ずれを起こす。そこで、位置ずれ防止ガイド、A側回転テーブル積み荷転倒防止柵を作成して改善した。
○リサイクル事業部アルミ選別班「騒音防止対策」(比嘉哲也氏)
ゴムマットを落下地点に敷いて騒音を軽減させたり、振動機周辺をアクリルで囲い騒音を密封したり、ECSに反応するMIXメタルに対してゴムマットの設置でぶつかる騒音を軽減させる対策で、騒音の改善を図った。
○リサイクル事業部ELV班「ワンステージスライドドアの改善」(金城盛之氏・玉城杏瑠氏)
廃油回収ラインは27メートルもある。車が入ってきたら早めにドアを閉めに行かなければならない。車が、作業前なのか後なのか分からずらい。そこで、車の重さに



購買班 仲本和哉氏 業務サポート班 古我知優弥氏 業務サポート班 坂本昇氏



車両班 儀間裕也氏 清掃班 仲間徳正氏 鉄屑班 小沢守人氏



家電班 木下進氏 営業課 中村慎之介氏 車両班 神村亮氏



アルミ選別班 比嘉哲也氏 炭素化施設班 幸喜克幸氏 シュレッダー班 喜屋武司氏



企画開発室 桃原絵理花氏 OA班 玉城存氏 ELV班 金城盛之氏

インベーションは他人事ではない

より自動でドアが閉まるように改善を進めてきた。
○リサイクル事業部OA班「コンテナ間の空気循環」(玉城存氏・玉城杏瑠氏)
電池保管庫が暑い。そこで、トンブロッカー1つ分のスペースを空けて並ぶコンテナ間の空気を循環させることで改善を図った。フロン保管庫から電池保管庫への通気口、電池保管庫の換気口を敷いて騒音を軽減させたり、振動機周辺をアクリルで囲い騒音を密封したり、ECSに反応するMIXメタルに対してゴムマットの設置でぶつかる騒音を軽減させる対策で、騒音の改善を図った。
○リサイクル事業部ELV班「ワンステージスライドドアの改善」(金城盛之氏・玉城杏瑠氏)
廃油回収ラインは27メートルもある。車が入ってきたら早めにドアを閉めに行かなければならない。車が、作業前なのか後なのか分からずらい。そこで、車の重さに
幹部役員と寒河江氏による審査が行われ、結果発表、表彰が行われた。
最優秀賞
リサイクル事業部家電班「塩水による被害防止」
優秀賞
リサイクル事業部炭素化施設班「投入すり位置ずれ防止ガイドおよび転倒防止フエンス製作」
企画開発室「デジタル日報



川上社長

それぞれ設置した。
○企画開発室「デジタル日報のすずめ」(桃原絵理花氏)
現状を把握した上で、日報の作成作業の省力化(日報のデジタル化)、転記作業の自動化(RPA)に取り組んだ。会員企業で導入実績のある点検エース、アシロボでトライアルし、良かった点、課題を洗い出した。
それぞれ設置した。
○企画開発室「デジタル日報のすずめ」(桃原絵理花氏)
現状を把握した上で、日報の作成作業の省力化(日報のデジタル化)、転記作業の自動化(RPA)に取り組んだ。会員企業で導入実績のある点検エース、アシロボでトライアルし、良かった点、課題を洗い出した。
各賞発表後、川上社長、寒河江氏、古波津会長が講評した。
川上社長は、次のように述べた。
「近年、環境問題がとりわけクローズアップされ、それに対応するために社会の変化も進んでいる。拓南商事も、自動車のEV化などへの対応が迫られている。今後、空飛ぶ自動車をリサイクルするようになる時代が来ることも視野に入れておかなければならない。
私たちは、70年に及ぶ技術の蓄積のもとで、新たなチャレンジに取り組まなければならぬ。そのためには、見る目を養う、みんなで作る、みんなでチャレンジする、この改善活動が重要になってくる。
今大会の各発表では、改善活動の見える化が数値化できていた。すばらしい成果

2代目の最優秀賞 フォーミング事業所フォーミング班

第2回改善活動成果発表大会 拓南製作所



各賞受賞チームと役員の皆さん



吉の浦会館大ホール

○建設鐵構事業所建設鐵構A切板仕分けプロジェクト
「仕分けから見える業務の

12チームが改善活動発表

発表大会は、富里真史常務取締役の開会あいさつで始まった。
「各チームの発表がこれから行われるが、他部署の業務内容を知る良い機会になるし、今後、自部署の改善活動にも生かされるはずだ。集中して聞いてほしい」
続いて、古波津昇代表取締役会長があいさつした。
「ふだんから、業務の中で気づいたこと、おかしいと思っ

拓南製作所は2月26日、第2回改善活動成果発表大会を吉の浦会館大ホールで開催した。協力企業を含む全社員、拓伸会会員企業幹部が参加した。現場改善チーム(12チーム)が発表を行い、審査の結果、フォーミング事業所フォーミング班(テーマC形鋼 段積み時の疲労軽減対策)が2代目の最優秀賞に輝いた。本部紹介代表取締役社長は講評のなかで「製作所は製作所なりの改善活動を築いていこう」と激励した。

るように心がけてほしい。同時に、不安全な状態をなくす、不安全な行動をとらないように進めていくことも重要だ。
皆さんの発表の成果が、他の部署にも参考になり、業務の改善、コストの削減、売り上げ増大の一助になることを祈念している」
その後、下記の順で12チームの発表(各約7分間)が行われた。

効率化」(発表・PC操作 銘苅彦志氏、知名修一郎氏)
「どの切板がどこにあるのか把握しづらい」「切板が何枚あるのか分かりにくい」「作業方法がよくないのでは」などの問題点の解決に取り組む、厚みごとの仕分けリストの作成、作業人数の見直しで改善した。
○建設鐵構事業所建設鐵構B「めっきタグ製作の効率化」(城間栄亮氏・仲村拓真氏)
めっきタグには「1文字ずつ打刻しているため製作に時間がかかる」「品質にバラつきがある」などの問題点がある。打刻機を製作し、効率化とコスト削減に加え、安全

皆さんのレベルが上がっていることを証明している。
拓南商事は、地球に優しくリサイクルをしている。個々の仕事は小さなことに思えるかもしれないが、トータルすると、地球に優しい仕事をしているのだ。新しい時代を拓くとき、どうしても必要な仕事を拓南商事はしている。皆でアイデアを出し合っ

点が僅差だった。最優秀賞の選考はとりわけ悩んだ。結局、勇気のある改善をしたチームの受賞となった。また、各チームとも、うれしいことに安全面にも配慮しており、3チームへ安全褒賞を授与することになった。
寒河江先生が「改善を10回行えばイノベーションが起きる」とおっしゃっていたが、どのチームも数回以上、PDCAをすでに回している。イノベーションは他人事でも遠いことでもない。来年の大会は、今年以上の改善発表を期待している」

リサイクルアート展表彰

講評の後、「特別発表」として営業部の上原大樹氏が第4回リサイクルアート展のエントリー作品17作品を紹介した。審査結果は次の通り。
最優秀賞「ベンケース」友寄太樹氏／優秀賞「辰年2匹の龍のパワーで運気上昇」仲宗根英樹氏／優良賞「小型スボットクローラー」垣花正子氏。閉会あいさつを、平田要取締役副社長が行った。



RA展の最優秀賞「ベンケース」友寄太樹氏

「皆さんは、各チームの発表を聞きながら、自分の職場に置き換えて考えてくれただろうか。今回の諸発表をぜひ参考に、今後の改善活動に生かしてほしい。
今大会では、他社や他部署の事例を参考に活動した発表があった。ふだんから「気づき」を意識しているからこそできたのだ、と評価する。改善活動で重要なのは、コミュニケーションをとることだ。コミュニケーションを図ると、いろいろな情報交換をするなかで「気づき」を得られる。
今大会の発表は、前回に比べてレベルが数段高かった。新年度の改善活動の成果に期待する」
司会は、営業部の比嘉恵一朗氏が務めた。



最優秀賞はフォーミング班に。(左から)照屋航介氏、本部社長

《5頁より》
面と品質の向上にもつなげることができた。
○建設鐵構事業所と那城出張所「収納ラック製作および資機材改良による作業の効率化 3.5から5.5へ」(新里翼氏・川満義貴氏)
工事終了後は次の現場へ資機材を全て移動する。スムーズに行うために、資機材の移動に便利なラックの検討、使用頻度が高く収納に不便で使い勝手の悪い道具の形状の検討(軽量化・コンパクト化)を行い、改善した。
○統括本部営業部「販売管理システム活用 情報の共有」(屋宜賢一氏・宮城直也氏)
各営業部が独自で情報を管理・保管しているために、情報を共有したいときや得たいとき、担当者がいなければ困難だった。現状使用している販売管理システムを、発想を変えて工夫・活用し、情報共有の改善をした。
○統括本部営業部「属人化の撲滅 みんなでゆいまる」(大湾珠依氏・奥屋るり子氏)

「この人にしかできない業務が多い」という現状を改善するため、教育方法が統一されていないことに着眼し、事業所ごとの業務マニュアルを作成。業務取得教育を実施し、全員達成で、多能工化へ第1歩を踏み出した。
○防錆事業所「準備班」製品の名称統一(比屋根毅氏・知花達也氏)
同じ製品で呼び方が変わると混乱が生ずるため、あいまいな状況の改善を図った。話し合いの結果、準備班の作業場壁面に、製品形状と名称が一目で分かる看板を目立つように設置した。記載作業中にも確認できる。
○防錆事業所「めつき班」MZ R導入に伴う、ドラム缶への灰入れ(上野竜矢氏・川満春輝氏)
MZ Rで処理する灰は専用ドラム缶に入れる必要がある。灰入れの問題点を洗い出し、灰を1度で入れられるようにバケツを改造し、ドラム缶の口からこぼれない



与那城出張所
新里翼氏



建設鐵構 B
城間栄亮氏



建設鐵構 A
銘切彦志氏

ように灰受けを作るなどの改善を行った。
○防錆事業所「仕上」消耗品の使用量削減 作業標準書の見直し・作成(金城将氏・知花洋希氏)
2件の改善を実施した。消耗品の使用量削減については、補修材をスプレー缶から塗料缶に切り替えた。作業標準書の見直し・作成については、既存のものを回覧して職員からアイデアを集め、新たに作成し、共有した。
○防錆事業所「品質管理係」りん酸処理製品ホワイトスポット現象の改善(宮城泰雅氏・里西潤哉氏)
りん酸処理後、製品表面に表れる白い斑点は、外観を悪くするだけでなく、塗膜密着性が悪くなる。発現の要因をテストで調べ、浸漬時間を可能な限り短くし、揺動を大きく行うことで低減を図る対応策を得た。
○フォーミング事業所「フォ



準備班
比屋根毅氏



業務部
大湾珠依氏



営業部
屋宜賢一氏

ーミング班「C形鋼 段積み時の疲労軽減対策」(照屋航介氏・伊波幸弘氏)
形鋼を積み重ねる作業は肩や腰に負担がかかる。そこで、使用していない昇降リフト、形鋼の当て板を設置して改善した。その結果、3人で行っていた作業が2人でできるようになった。
○フォーミング事業所「線材班」長尺製品梱包時の安全と安定の確保(国吉真琴氏・照屋玲子氏)
「長尺製品の梱包作業時間が長い」「ホイスト吊り上げ時の危険性が高い」という問題点に対し、ラックA・Bを製作して改善を目指した。しやがまずに結束できるようなになり、何れもなく作業ができるようになった。
○鉄筋事業所「バラ仕分け作業時の効率化、看板設置による時間ロスの軽減」(栗原健斗氏・稲嶺聡氏)



品質管理係
宮城泰雅氏



仕上
金城将氏



めつき班
上野竜矢氏

各ヤードで、床に、径、長さの表示を貼るなど仕分け作業時の効率化を図った。「拓南製作所」として伝票に記さ

まず安全であることが重要

12チームの発表後、役員による審査に移り、その時間を活用して「特別講演」が行われた。拓南本社執行役員の長濱直次安全統括室長(健康づくり担当者)が「自分の健康経営、拓南グループの健康経営をテーマに講演した。審査後、講評に移った。
古波津会長が、その中で次のように述べた。
「個人的な感想としては、安全性を最初に強く分かるように発表してほしい。効率化が重要なものもあるんだ。しかし、まず安全であることが重要だ。危険性を回避するための改善が一番立派な改善だ」
続いて、本部社長が講評した。
「全体的に良い発表だった。遊休化している設備を利用して改善した事例が特に印象深かった。テーマを見て感動したのは、業務部の「属人化の撲滅 みんなでゆいまる」だ。私は以前から「自分の事業所のことだけでなく、みんなが各事業所の業務をできるように」とずっと言い続けてきた。それだけに、やるうという気持ちがある。あたったんだと、感動した。当社の改善活動は、専門のアドバイザーなしで、自分たちで考えて取り組んでいる。製作所は製作所なりの改善



鉄筋事業所
栗原健斗氏



線材班
国吉真琴氏



フォーミング班
照屋航介氏

活動を築いていこう」
司会者が審査結果を発表し、表彰式に移った。
☆最優秀賞
フォーミング事業所「フォーミング班」C形鋼 段積み時の疲労軽減対策
☆優秀賞
建設鐵構事業所「建設鐵構B」めつきタケ製作の効率化
☆優良賞
統括本部営業部「属人化の撲滅 みんなでゆいまる」
☆奨励賞
建設鐵構事業所「那城出張所」収納ラック製作および資機材改良による作業の効率化 3.5から5.5へ
統括本部営業部「販売管理システム活用 情報の共有」
鉄筋事業所「バラ仕分け作業時の効率化、看板設置による時間ロスの軽減」
閉会あいさつは、奥平勉取締役副社長が行った。
「改善活動は、PDCAを回せば回すほど良い結果が出る」といわれている。今大会の発表では、うまく回っていないところも、4〜5回回しているところもあった。失敗事例もPRしてよい。評価に値かに改善するかという活動だ。自分のため、メンバーのためにこれからは積極的に取り組んでほしい」
司会は、業務課の喜友名千加子主任を務めた。



本部社長

朝日を浴びて初荷式

伏見稲荷・産業之宮で年頭祈願 拓伸会

拓伸会および協力企業合同による年頭祈願および初荷式が、好天に恵まれた1月4日早朝、拓南製鐵本社中部

事業所で行われた。念頭祈願は、伏見稲荷・産業之宮で行われ、拓南製鐵、拓南商事、協力企業の社

員、拓伸会会員企業幹部が参加し、式典のようを会員企業へリモート配信した。

式典では、沖宮の土地健太郎神職が修祓の儀、祝詞奏上を行い、拓伸会の古波津昇会長、拓南製鐵の八木実代表取締役社長、拓南商事の川上哲史代表取締役社長、拓伸商事(大阪)の大城秀政代表取締役社長、鐵鋼処理産業の宜本徹代表取締役社長、泉産業の泉川スミ子代表取締役社長(代理・泉川綾香氏)、小湾運送の伊佐信治代表取締役社長、拓南製鐵の本部賀代子監査役が玉串奉奠を行った。

続いて年頭訓辭が行われた。拓伸会の古波津昇会長、拓南製鐵の八木社長、拓南商事の川上社長、拓伸商事の大城社長、拓南製作所の本部紹吉社長(リモート)がそれぞれ訓辭した。



沖宮・土地神職による祝詞奏上

基本的な動作をしつかり

拓伸会 会長 古波津昇

先行きが期待できるうれしい好天に恵まれ、新たな1年が始まった。

その一方で、1日は能登半島地震、2日は海上保安庁航空機と日航機が羽田空港で衝突し炎上する事故、3日は北九州市で火災が起きた。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、災害に遭われた方々には1日も早い治癒、復興をお祈りしたい。

今回の事故等を通して、皆

さんには、基本的な動作をしつかりしておくことが必要であり、やりすぎに越したことはない、他人事ではない、ということを考えていただきたい。

ところで、私の元日は、例年通りに中部事業所で初日の出を拝観し、金武町商工会がキャンブハンセン前付近に設置した大きな門松ドラム缶製を参拝してきた。その門松には、私の名前と同じ

1

「備えに勝る対策なし」

拓南製鐵 代表取締役社長 八木実

清々しい気持ちで初詣に行ってきた。社員の皆さんの健康と安全、社業の発展を祈願してきた。

今年も、みんなで一丸となつて、頑張っていこう。

能登半島地震では、惨状を伝える報道を通して、拓伸会

の共通のスローガンである「備えに勝る対策なし」を再度意識した。会長が強調した通り、基本的な動作をしつかり行うことも大切だ。

さらなる成長を目指す

拓南商事 代表取締役社長 川上哲史

今年の金属リサイクル業界は、全国的に苦戦する企業が多かった。その中で当社は12月、1万トンを超える鉄原料を出荷することができた。

離島を含めると1万2000トンを超える取扱量になった。この成果は、グループ各社のご協力のお陰だと感謝を申し上げる。

当社は昨年、パートナーシップ宣言を行った。今年は、取引業者など関係する企業

と力をさらに合わせ、昨年稼働した堅型シュレッダーを含め、企業活動の強みを生かし、さらなる活況、さらなる成長を目指したい。

併せて、人力による手作業で苦労している部分についてはロボット化を含め、グループ各社の力を借りて研究する所存だ。ゼロ炭達成、健康経営もまい進していく。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

県外3社が協力して貢献

拓伸商事(大阪)福岡 代表取締役社長 大城秀政

拓伸会は昨年、設備投資が多くなっている。

昨年、拓南製鐵でトランスの更新、拓南商事で堅型シュレッダーの導入、今年、拓南製鐵圧延工場でもター交換等が予定され、大きな設備投資がめじろ押しだ。

100年企業に向けた大型投資がスムーズに行われるように、拓伸商事大阪、拓伸商事福岡、薩南物産の県外3社は協力し、皆様のお役に

立てるよう尽力していく。拓伸商事福岡は昨年、月平均2000トン出荷してきた。引き続き、とりこぼしなどに目を配り、努力していきたい。

薩南物産は、原料の鉄スクラップの発生が少なく、苦戦している。課題解決に尽力していく。

拓伸会の県外3社は情報共有し、拓伸会の皆様のお役に立てるよう今年も頑張る。よろしくお願いしたい。

既成概念を取り払って改革

拓南製作所 代表取締役社長 本部紹吉

旧中城4社が合併してから3月末で満7年になる。合併時に抱えていたいくつかの負の遺産も、今期中にすべて解決する見込みだ。

そこで、4月からスタートする第52期は、生まれ変わった新生・拓南製作所として、これまでの既成概念を取り払った改革に取り組んでいく。

まず、今期基本方針(共有と連携で更なる50年へ)に掲げたものの、速やかな「共有」「連携」がとれていないことから、思い切った人的交流を視野に入れ、お互いの壁をさらに低くしていく。業務だけでなく、スポーツ等を通じて社員間交流も盛り上げていきたい。昨年、野球部は、さまざまな大会に出場して大いに盛り上げてくれた。今年

安全衛生活動では、ゼロ炭が現在、394日となった。皆さんの安全衛生活動の取り組みに深く感謝を申し上げたい。引き続き、ゼロ炭1000日に向けて、一層の取り組みを期待している。

コロナ禍があけた今年を、これまでにない活気のある1年にしたい。社員一丸となつて頑張っていこう。

安全衛生活動では、ゼロ炭が現在、394日となった。皆さんの安全衛生活動の取り組みに深く感謝を申し上げたい。引き続き、ゼロ炭1000日に向けて、一層の取り組みを期待している。

「初荷」トラックへ大きな拍手

式典はその後、安全衛生統括責任者・親富祖茂部長による

「社訓唱和」が行われ、ゼロ炭委員会の伊佐信治委員による「ゼロ炭唱和」で締めくくられた。

司会は、拓南本社の上原康志執行役員総合企画部部長を務めた。

終了後、初荷式が行われた。参加者は、正門周辺へ移動し、新春の朝日を浴びながら、原料人荷と鉄筋出荷の「初荷」のトラック列に向けて大きな拍手を送った。



初荷式

古波津会長が第1号寄付

THANKS運動基金へ1000万円

拓伸会の古波津昇会長が12月22日、半年前に創設したTHANKS(サンクス)運動基金へ第1号となる1000万円の寄付を行った。写真参照。

「いま、世の中の3割が貧困に苦しんでいるといわれ、給食のパンを持ち帰って夕食をしのぐ子どもたちがいる。ヤングケアラーやネグレクトの問題もあり、以前から何かできないか考えていた。子どもたちが当たり前の生活をして、きちんと初等教育が受けられるような社会環境を作りたい」と受領者あいさつをした。

両親の遺産を呼び水に

同推進会議事務局の県社福協で行われた寄付金贈呈式に同行した拓南本社ESG推進室の花城可人次長によると、古波津会長は、次のように寄贈者あいさつをした。

地元2紙も、同基金への寄付を報じた。古波津会長のコメントを「沖縄タイムス」(12月23日付)は「基金の取り組みを一般の方に知ってもらい、寄付が積み上がったいくことを期待している」、「琉球新報」(12月24日付)は「亡くなった両親の遺産を寄付した。今回の寄付が呼び水になり、子どもたちへの支援が広がることを願う」と紹介した。



「沖縄タイムス」令和5年12月23日付



「琉球新報」令和5年12月24日付

小湾副会長と山田顧問が豆まき

「福は内！」波上宮の節分厄除祭

那覇市若狭の波上宮で2月3日、恒例の節分厄除祭が開催された。

辰年生まれの年男・年女十数人(12〜96歳)が、祭祀用の衣装である小忌衣(おみごろも)を身にまとい、1年の無事を願っておはらいを受け、豆まきを行った。そのなかに、拓伸会の小湾正博副会長と写真右側と拓南本社



の山田親和顧問と左側との姿もあった。かまれると利益があるという獅子舞が登場すると、境内の年男・年女は約200人ほどの参拝者に向けて、福豆やお菓子(紅白餅)、おもちゃなどをまいた。参拝者は、縁起物だけに「こちらへお願い」と手を伸ばしてアピールしていた。

小湾副会長の感想。

「人生初めて節分の行事と人前での豆まきを体験させていただきました。いざ、波之上宮にて袴(かみしも)の衣装に着替え、神聖な雰囲気の中で厄払いや神々の加護を受けると、とても清々しい気持ちになりました。また、壇上での豆まきでは、鬼や厄を追い払い、家や仕事の邪気を追い払うという伝統的な行

新垣氏製作所を優良若年従事者表彰

1 沖縄県建設業協会

(二社) 沖縄県建設業協会では1月30日、カフーナ旭橋にあるグッジョブセンター沖縄で、拓南製作所建設部積算課班長の新垣翔理氏を優良若年建設従事者として表彰



し、表彰状ならびに記念品を授与した。式典後、新垣氏は次のように感想を述べた。

「この度、優秀若年建設従事者に選ばれたいへん光栄です。表彰を受けられたのも上司や同僚のおかげだと感じています。これからは、後輩や部下の指導も視野に入れながら、日々精進してまいります」

表彰式は、沖縄県建設業協会改善優良事業所表彰式の一環として行われた。

初のハラスメント講習会

2 32人受講 拓南商事

事を体験し、たくさんの子もたちの笑顔に接することができました。今回の体験は、日本の伝統文化を体感できる貴重な機会であり、心身の浄化や縁起担ぎにも役立つものでした」



拓南商事は2月7日、同社で初めてのハラスメント講習会を開催した。

講師は、拓南本社の長濱直次執行役員安全統括室長が務めた。沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター2階会議室で、2回に分けて16人ずつ計32人が受講した。拓伸会会員企業のハラスメント講習会は、昨年3月8日に実施した拓南製作所に続いて2社目。



「拓伸会統一の規定後、実際に、社内においてもハラスメント事例があり、対応するのにかんがりの努力と時間が割かれた、たいへん苦労した。今回ハラスメント(特にパワハラ)の研修を受け、風通しの良い職場環境づくりの重要性は、業務の円滑化だけではなく、ハラスメントを防止する上でも必要なことだと強く感じた」

一方、安全衛生委員会の石川正人主任は「現場の担当者や仲間たちと意見交換し、積極的なコミュニケーションを図ることが必要だと思った。(受講者には)そうすることでハラスメントを回避できるのかな、と今同学んだことを実践し、役立ててもらえたらと思う」と感想を述べた。

100年企業担う新成人を祝福

各社で記念品贈呈式 拓伸会

1

拓伸会は1月下旬、2000

3年4月2日、04年4月1日に誕生した20歳の社員6人を祝福し、記念品を贈呈した。該当する新成人は、拓南製鐵3人、拓南商事2人、拓南製作所1人の計6人で、各社で贈呈式を行った。

〈拓南製鐵〉

拓南製鐵は1月22日、中部事業所管理棟1階で2人、石灰工場で1人を祝福した。記念品を贈呈した知念正

元取締役副社長は、次のように祝福の言葉を贈った。

「新成人おめでとうございませう。就職して2年が経過し、仕事についても、先輩方からの技術の習得や自己啓発が重要となります。報連相を徹底し、やりがいのある人生にしていってください。皆さん

は30年後、拓伸会が経験した

このない100年企業を経験します。その頃、皆さんがベテラン社員として、職長やトップレベルの社員となつて、安全と健康に留意し、楽しい生活設計を過ごすことを希望し、成人祝いの言葉といたします。ご安全に」

新成人のコメントは次の通り。

満井海輝氏

「新成人となり、ますます業務に励みたいですね」

仲嶺青空氏

「成人を迎えたので、一つ一つの行動を考えて仕事を頑張ります」

赤嶺唯温氏

「今と変わらず、そのまの自分でがんばりたいと思います」

＊石灰工場では、山内昌博事務取締役が記念品を贈呈した。

〈拓南商事〉

拓南商事は1月12日、同社で2人の新成人を祝った。川上哲史代表取締役社長が記念品を贈呈し、お祝いの言葉を贈った。

「新成人おめでとうございませう。節目の時に、弊社にて働いてくれてありがとうございます。働くことは自分を成長させてくれます。仕事を通し、先輩方と関わり、自立できる人間になってください。そして、拓南商事の責任者を目指してください」

新成人のコメントは次の通り。

亀谷魁己氏

「成人を迎えた喜びと、周りに信頼できるカッコイイ大人になります」

長浜真吾氏

「成人式を迎え、これから班長・職長と昇格できるように頑張ります」

〈拓南製作所〉

拓南製作所は1月9日、朝礼で新成人1人を祝福した。

本部紹吉代表取締役社長が記念品を贈呈し、お祝いの言葉を贈った。

「成人おめでとうございませう。20歳を正真正正、大人として第1歩を踏み出されたわけですが、これから拓鐵興疏の伝統を重んじ、真つすぐな姿勢で頑張ってください。若々しい力に期待しています」

新成人のコメントは次の通り。

玉城和樹氏

「これからは今まで以上に責任感を持って行動していきたい。また、健康経営宣言をしているので、体重を1年間で10キロ減目標に頑張ります」

飲酒運転根絶対策優良事業所に

拓南製鐵へ認定標章交付 県警

12

沖縄県警察本部は12月20日、「飲酒運転の根絶に向け、取り組みを自主的かつ積極的に実施している」として、飲酒運転根絶対策優良事業所8社を認定し、拓南製鐵も選ばれた。

認定標章交付式は、浦添市でたこホール(大ホール)で同日に開催した「飲酒運転根絶県民大会」および「令和5



年度交通安全フォーラム」の席上、行われた。知念正元取締役副社長が、認定標章のプレートを受け取った。右写真。

沖縄県の飲酒運転関連状況は、令和4年中の飲酒運転検挙件数が1025件で全国平均の約4・6倍、同年中の人身事故に占める飲酒絡み事故の構成率が全国平均の約2・5倍(2年連続全国ワースト1位)となっている。

認定表彰のプレートは、同社事務所内エントランスのガラスに貼り付けて掲示している。

ゼロ災2000日達成

拓南製鐵石灰工場

12

拓南製鐵の石灰工場が昨年10月30日付で、ゼロ災2000日を達成した。

12月1日の石灰工場安全祈願祭で表彰式が行われ、知念正元取締役副社長から入田勉工場長に「ゼロ災記録証」が手渡された。

入田工場長は、次のように感想と抱負を述べた。

「ゼロ災2000日は、前任者やベテラン社員が築いてきた安全対策、安全行動を現在のメンバーが引き継ぎ、実践することで達成できたと考えている。この2000日を通過点として、ゼロ災害を継続していくには、まだまだ課題が多い現状だ。今後は、作業手順書の見直しや、他部署や他社の災害事例考察等



ゼロ災2000日を達成した石灰工場

製作所に社資功労「銀色有功章」

日本赤十字社沖縄県支部

1

日本赤十字社沖縄県支部は1月24日、てだこホール(浦添市)で開いた令和6年沖縄県赤十字大会の表彰式で、拓南製作所に社資功労「銀色有功章」を授与した。業務部の知念直成課長代理が参加し、式典後、次のように感想を述べた。

「当社は約20年間に渡り、寄付を行っており、その功績が認められ、今回の受章となりました。今後も、継続的な寄付および奉仕活動を行い、赤十字活動に貢献してまいります」



(左から)山内昌博事務、赤嶺唯温氏 (左から)満井海輝氏、仲嶺青空氏、知念正元副社長



(左から)福本将希常務、野原朝実班長(家電班)、亀谷魁己氏、長浜真吾氏、川上哲史社長



(左から)奥平勉副社長、玉城和樹氏、本部紹吉社長



松本職長（製鐵）に顕彰状と徽章

安全優良職長厚生労働大臣顕彰

厚生労働省は1月12日、令和5年度安全優良職長厚生労働大臣顕彰式典をイイノホール（東京都千代田区）で

開いた。席上、宮崎政久副大臣が、拓南製鐵製造技術本部加工センターの松本浩職長（前・石灰工場職長）9頁参

照)に顕彰状と徽章(きしよ
う)を授与した。

今回の顕彰対象者は、全国各地で優れた技能と経験を

持ち、担当する現場や部署で作業の安全を確保して優良な成績を挙げた職長108人。

式典後、松本氏は、次のように感想と抱負を述べた。

「名誉ある顕彰状ならびに徽章をいただき、たいへんうれしく思います。拓南製鐵に入社したからこそ、と感謝しています。今後も、安全のキーパーソンとして安全衛生生活

松本職長は2月6日、拓南製鐵の八木実代表取締役社長ら幹部とともに、厚生労働省沖縄労働局の西川昌登局長と沖縄県労働基準協会の島袋清人会長を訪問し、顕彰の報告をした。その際、沖縄建設新聞の取材も受けた。

実践してきた優秀な職長を顕彰することにより、安全活動の活性化を図ることを目的に実施している。1998年度から始まり、今回で26回目。松本職長の大臣顕彰は2月1日、拓南製鐵の安全祈願祭で、全社員に報告された。

顕彰報告

訪問を終えて松本職長は、次のように感想を述べた。

「西原局長、島袋会長とも、重大事故にならないためにすべき重要なことはヒヤリハットの吸い上げだ、とおっしゃっていました。仲間を守るためには、ヒヤリハットの吸

有、社員が伝えやすい環境づくりが大切だとあらためて痛感しました。

これからも、安全のキーパーソンとして、本部署を含め会社全体の安全に対する意識の底上げ、無災害に向けた安全衛生活動を全員参画のものとて推進していきます。そのため、みんなのため、会



四国経済新聞 2024年2月14日付

社のため、家族のために合言「葉に、安全衛生活動に尽力します」



(左から)親富相部長、長濱室長、嘉手納労働基準部長、西川局長、松本課長、八木社長、松井専務(沖縄労働局長客で)



宮崎副大臣(左)と松本職長
(式典会場のイイノホールで)

酸素プラント導入記(3)

大見得を切った手前

黒島 善茂

2号炉建設に踏み切った
創業者は、炉の完成（19
65年）までに現有炉にお
いて品質、生産性の向上、原
単位、コストの低減を早急
に図るよう指示された。

当時の炉前作業は、脱炭
するのに圧延で発生するス

ケールを使用していた。それによって酸化スラグが硬くなり、それをデレキと称する道具で掻き出すのだが、高温環境の中で体力が消耗し、作業能力にばらつきがあり、加えて、時間との勝負のため最も苛酷な作業と

酸素製鋼法は、今でこそ至極当然に使われているが、そのころは本土でようやく採用されつつあった。それを取り入れれば、炉前作業を一変させ、それによって創業者の指示事項が達成できると考え、提案した。

創業者は「よし分かった。それなら速やかに実施し、結果を報告せよ」と言われた。

生機で液体酸素を使用して
おり、それゆゑ、沖縄では
酸素価が約6倍も高くつ
くことが分かった。市場調
査もろくにせず、そのうえ
アータや文献もなく、生平
可なり知識だけで事を進めて
いる己に気づき、自己嫌悪
に陥った。

しかし、大見栄を切った
手前、今さら後に引けない
やむを得ず、規模の大きい
神純酸素にお願いして、酸

拓伸会から3氏

那覇商工会議所は2月27日、令和5年度永年勤続優良従業員表彰式をパシフィックホテル沖縄（万座の間）で開いた。

被表彰者207人のうち



拓伸会関係者は、拓南本社の上
安仁屋歩氏（勤続26年）、拓南
製鐵の玉城孝太氏（17年）、川
村剛司氏（16年）の3氏が表
彰された。

安仁屋氏は「上司、先輩方

のご指導や共に働くメンバーにも恵まれ、ここまで勤務してこられました。今後、
の発展に貢献していきたい
と思います」、玉城氏は「今の
自分があるのは、先輩方と同
僚、後輩の協力があったから
こそです。仕事への理解と気
持ちの支えになってくれた
家族にも感謝し、社業発展に
寄与できるよう精進します」

拓南余話⑭



酸素ボンベと連結して使用。ただし
2日に1回の取り替えが必要だった

いざ取りかかってはみたものの、肝心要の酸素を調達するのに難点があった。そのころ、県内の酸素工場は国際酸素（壺川）と沖縄酸素（安謝・現おきさん）の2社だけだった。しかし両社とも液体酸素は取り扱っていなかった。

素ボンベ30本を連結して使用した。

手探りの状態で進めたが結果は想像以上のものとなった。その実績を基に導入が検討され、自社で酸素発生機を設置することが決定された。

（仲伸会 前名誉会長）

(拓伸会 前名誉会長)



表彰状を手にする安仁屋氏



(左から)表彰状を手にする玉城氏、川村氏

拓伸会から3氏

永年勤続表彰

那覇商工会議所

那覇商工会議所は2月27日、令和5年度永年勤続優良従業員表彰式をパシフィックホテル沖縄（万座の間）で開いた。

被表彰者207人のうち

拓伸会関係者は、拓南本社
の安仁屋歩氏(勤続26年)、拓南
製鐵の玉城孝太氏(17年)、川
村剛司氏(16年)の3氏が表
彰された。

のご指導や共に働くメンバーにも恵まれ、ここまで勤務してこられました。今後、楽しく仕事に取り組み、会社の発展に貢献していきたいと思います」、玉城氏は「今の自分があるのは、先輩方と同僚、後輩の協力があったからこそです。仕事への理解と気

家族にも感謝し、社業発展に寄与できるよう精進します。川村氏は「入社して、気づけば勤続16年目になりました。同僚や上司、グループ会社の皆様だけでなく、お客様や東京鐵鋼様にもフォロ워していただいていることを続けてもらいました。感謝の気持ちで充ちられず、今後も業務に励んでまいります」とそれぞれ感想や抱負を語った。

拓南製鐵と拓南商事の合同工場見学会が2月16日に実施された。そこで、見学会のディレクターを務めた神谷愛里氏にレポートを寄稿してもらった。

拓南製鐵・拓南商事合同工場見学会

2年

コロナ禍後最多の 461人来場

拓南本社 神谷愛里

前日まで晴れの日が続き、雨風の心配なく本番の2月16日を迎えました。お昼前に小雨がありましたが持ちこたえ、無事に見学会を終えられたなあ、と思いつつ片付けをしていると途端に雨が降り始めたので驚きました。きつと皆様の日頃の行いのお陰でしょう。

合同工場見学会は今回で36回目となり、来場者数はコ



トラクターの前で説明する仲里典子氏(製鐵) 階段で説明する入田勉次長(製鐵)

なかでも、新しい取り組みとして、「WG特設コーナー」があります。

拓南グループのことをさらに知ってもらいたいという思いから何を展示したいかをWG内で考え、各社の展示内容に加えて「拓仲会70周年」「健康経営の取り組み」の2テーマで展示を行いました。初めての企画で少々簡素なものではありましたが、足を止めて興味を持ってくださるお客様の姿があったので、うれしく思いました。

また、今回は、スタッフ配置に関しても、初めての役割を担ったスタッフが例年より多くいましたので、色々な場所を経験を積みめました。各社、各部署においてレベルアップにもつながっていると思います。

コロナ禍が収束し、お客様との懇談も活発に行われ、大変にぎやかで活気ある1日となりました。お客様が「すごいね」などと笑顔で本部へ帰ってくる様子が印象に残っています。

小さな反省点は多くありますが、今回の見学会5月予定)もすぐ迫ってくるので、振り返りをしっかり行ったらうで良い点は次回も生かし、反省点は改善できるように取り組んでいきたいと思っています。(総合企画部)

初めて直に見学 純粋に感激

日本銀行那覇支店支店長 小島亮太氏

家電や自動車はその役割を終えて廃棄されたものから、資源再生の一つの方法として建築資材の鉄筋に再生

リサイクルを支えている「人」

厚生労働省沖縄労働局長 西川昌登氏

工場見学会は今回で4回目ですが、毎回味わう新たな感動。今回の感動は「人」でした。

解体・粉砕や製鐵の製造ラインで必要とされるのは、知識や資格はもちろん、先輩からの指導・経験に基づく熟練の技。県内全産業の根幹を支

商事・製鐵の連続工程に感動

沖縄振興開発金融公庫調査部長 大西公一郎氏

自分たちが身近で使っていた家電や自動車が拓南商事の工場で解体され、そして拓南製鐵の工場で鉄筋という製品になっていくのを

見学会の完成度に驚き

琉球海運R.L.Cプロジェクト推進室 新垣優紀氏

弊社は海運業を営んでお合いがあることをきっかけに、今回の見学会に初めて参



(左から)小島日銀那覇支店支店長、古波津会長、西川沖縄労働局長、大西沖縄振興調査部長、八木社長、長濱安全統括室長



友寄廉氏

山内望鈴氏

新垣優紀氏

加させていただきました。今回で36回目ということもあり、見学会の完成度の高さに驚きました。

アテンド役の方は流ちょうな説明でとても分かりやすかったです。また、数字面(敷地面積、溶解温度、設備の重量、水の使用量等)も把握していることから、業務内容をきちんと理解して従事されているんだなと感心させられました。

県内最大の天井クレーンを使用して電気炉に投入されるシーンは圧巻で、参加者がみな驚いていたことが印象的でした。

私たちの生活を支えていた おきぎんリース 山内望鈴氏

なかなか参加できない工場見学会をさせていただき、スタッフの皆様の分かりやすい説明を拝聴して、とても貴重な体験になりました。

私たちが使っている車などを大きな機械で細かく分ける点などがすてきだなと感じました。工場内も、敷地

手作業での解体に衝撃

美里工業高校機械科 友寄 廉氏

工場を見学してみても印象に残ったのは、家電を解体するときに細かく部品を分け、それを手作業で解体していたことです。何かしら機械を使っていると思っていたので衝撃でした。

他には、電気炉を使用する電力が50分で家庭の4〜5



拓南商事では入社1年目の玉城杏里氏も説明(右側・ヘルメットに初心者マーク)

「給与検定」 「秘書検定」で合格者

【資格取得】新設 あじまあ掲示板

今号から、「あじまあ掲示板」に「資格取得」を新設します。担当業務と関わりがある資格の取得者(原則として数カ月以内に合格)を掲載します。今回該当した社員は、(一財)職業技能振興会が主催する「給与計算実務能力検定」1級に合格した拓南本社雇用管理課の石原昌一郎主任。そして、(公財)実務技能検定協会が主催する「文部科学省後援秘書技能検定試験」1級に合格した拓南本社総合企画部の島袋緑主任、準1級に合格した拓南製鐵営業本部営業管理部の又吉美幸課長代理です。

〈拓南本社 給与検定
屋我氏に続き石原氏合格〉



石原昌一郎主任が合格した「給与計算実務能力検定」1級試験は、昨年11月に行われ、受験者2640人中、合格者1226人(47・95%)でした。石原主任は「給与業務に必要な資格と感じ、また自分自身の仕事のレベルを上げたかったため」受験に臨んだそうです。次のように抱負を語ってくれました。

業務につとめてまいりました。ところで、同1級を、拓南本社では同課職員の屋我香葉子氏が2021年12月に合格していました。あらためて、屋我氏は「1級取得後の心境の変化としては、自信を持って業務に励めるようになった。社会の仕組みや構造を理解することで、これまで淡々とこなしていた業務にも、こんな意味があったのかという発見があり、楽しくなり見えた。また、社会情勢のニュースにも敏感になり、ますます知識が深まっていると感じています」

〈拓南本社 秘書検定
島袋氏 再挑戦で1級合格〉

島袋緑主任が合格した「秘書技能検定試験」1級の2次試験(面接)は、昨年12月に行われました。

1級の受験者数は全国736人・沖縄県9人で、合格者は全国208人(合格率28・3%)・沖縄県2人でした。島袋主任は、入社前に2級合格を果たして、一昨年、「秘書として働く上でスキルアップしたい」と思い、準1級に挑戦しましたが、筆記試験には通つたものの2次試験で涙を飲みました。今回、2度目の挑戦で合格を果たしました。感想と抱負を次のように語ってくれました。

「どれもが日々学習の連続ですが、秘書は、常にボスファーストの仕事。信頼関係の構築には、誠実な心と自身のスキルアップも必須だと思い、努めております。面接は、2度目の挑戦にも関わらず鬼試験官が恐怖で、ものすごく緊張しましたが、息子の応援と会長に鍛えられていたお陰で合格できました(笑)。感謝」

職種上、秘書は孤独な仕事ですが、数少ない共感する立場の同志に支えられてもらい、求められている役割を理解しながらも自発的に行動できるよう努め、今後も真摯な姿勢で心をかけながら、社の一助になれるよう精進いたします」



〈拓南製鐵 秘書検定
又吉氏 同志に励まされ〉

又吉美幸課長代理が合格した準1級の筆記試験は昨年11月、2次試験は12月に行われました。

面接が加わり2級に比べて難易度がぐっと高くなる準1級の受験者数は全国2579人・沖縄県22人で、合格者は全国1067人(合格率41・4%)・沖縄4人でした。又吉課長代理は「島袋主任から『受けてみたら

いかがですか』とお誘いがあり、1度は流したものの、昨年10月頃に再びお声かけをいただき、社会人としてのマナーや知識を再認識するために、今後のスキルアップになればと思い、受験したそうです。感想と抱負を次のように語ってくれました。

「何十年ぶりに教科書に向かいました。なかなか勉強に手が回らなく、モチベーションを上げるのに苦労し、気持ちを切り替えて集中できるようにしたのは、試験2週間ほど前になってからでした。筆記試験当日、教室に入り、席に座ったときは、試験会場の雰囲気懐かしさを感じつつも、答案用紙に記入する周りの受験生の鉛筆の音にすごく緊張しました。面接は、筆記試験以上に緊張しました。面接官の優しい表情のなかに鋭い視線を感じてしまい、頭の中が真っ白になりました。我に返ったのは、面接が終了して入口に戻ったときでした。今回、受験生の中に70代の方もいました。人生100年時代、生きていく限り、年を重ねながらも学ぶことを忘れず、同僚や上司、後輩からも信頼される存在になれるように励みたいと思います。また、お互いに成長し合える同志を大切にしたいと思います」



2024年
1月1日～2月29日
*一眼、未処分も掲載しています。

後編

工場見学会11員参加。照二では、若手・中堅のスタッフがそれぞれの持ち場でハツラツと対応、さすががしい空気を会場に醸していました。私がマイカーで中部事業所構内に入ると、途端に誘導棒を手にしたロングヘアの女性が機敏な動きで行き先を指示してくれ、一瞬警備会社のプロかと思いました。やる気は伝わりますね。(鈴木)